

大阪府情報活用能力ステップシートの関連項目

C-STEP3 D-STEP3 E-STEP3

つきたい力

- 自分に合った学習方法を選び、主体的に学習を進める力
- 学習を振り返り、次の学びに生かす力
- 学びを実生活や他教科につなげる力

ねらい

4月に実施した児童アンケートでは、「1人1台端末を使うことで、自分に合った内容やペースで学習できていますか。」「次の学習や他教科、実生活に結び付けて考えたり、役立てたりしていますか。」の項目が、ほかの項目に比べて低い結果であった。そこで、自ら学習方法やペースを調整しながら学びを進める力や、学習を実生活と関連付けて次の学びへ活かす力を育成をねらいとした。

コンテンツ活用のポイント

- ・ロイロノートを活用し、本時のめあて、評価基準、問題を共有。
- ・ノートとデジタルを選択できる環境を整え、一人ひとりが自分に合った方法で学習を進められるようにする。

具体的な取組みの内容・指導の流れ

- ①本時のめあて・評価基準・問題を確認する。
- ②誰と学ぶか、一人で考えるか、ロイロノートやノートなどの方法でまとめるか、自分で選択する。
- ③学習を進める中で、自分で時間配分を考えながら取り組む。
- ④教師は、学習が停滞している児童を中心に声をかけたり、必要に応じて全体で考えを共有したりしながら学習を支援する。
- ⑤授業の終わりに振り返りを書き、次時のめあてを設定する。
- ⑥次時の導入では、前時の振り返りを紹介し、特に「前回の課題を今回改善できた児童」の振り返りを共有することで、自己調整の具体例として価値づける。

子どもの変容

- 「今日は昨日より、時間を意識しよう」「友だちと相談して考えてみよう」など、自分で学び方を調整する姿を見られた。
- 振り返りでは、「できた・できなかった」だけでなく、「次は～」と具体的な改善策を書くよう伝えていったことで、振り返りの質が向上した。
- 7月の児童アンケートでは、「1人1台端末を使うことで、自分に合った内容やペースで学習できていますか。」が3.4ポイント向上、「次の学習や他教科、実生活に結び付けて考えたり、役立てたりしていますか。」が8.7ポイント向上し、自己調整する力の育成につながった。
- 「ロイロノートを使うこと」や「友だちと学ぶこと」を目的にするのではなく、「なぜその方法を選ぶのか」を児童自身が説明できるようにし、目的に応じて学習方法を選択・改善できる自己調整する力の育成をさらに進めていきたい。

